

## 令和5年度 芸術科 書道Ⅱ シラバス

教科名	科目名	対象学年	対象学級	単位数	履修形態	教科書(発行所)
書道	書道Ⅰ	2、3年	2年1・2・3・4、3年5・6	2	選択	光村図書
検印	校長 ( )	教頭 ( ) ( )	担当：上間 志乃 印			

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現と鑑賞を有機的に関連させて展開される書道の創造的な諸活動をととして書を愛好する心情を育てるとともに感性をさらに高めていく。</li> <li>・書の文化や伝統について理論的な側面を含めて理解を深め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばしていく。</li> </ul>
評価観点	<p>1、関心・意欲・態度 書を愛し古典の学習を通して書の文化や伝統についての理解を深めようとしているか。意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行いその喜びを味わおうとしているか。</p> <p>2、芸術的な感受性やその工夫 感受性を高め、学習を通して個性豊かな能力を伸ばし、創造的な表現の工夫をしているか</p> <p>3、創造的な表現の技能 個性豊かな表現をするために幅広い表現理論と技能を身につけているか。</p> <p>4、鑑賞の能力 古典の学習ををとおして書の歴史や文化について理解し、鑑賞の活動の中で書的美を分析・総合的に捉え、そのよさを味わっているか</p>
評価方法	授業への取り組み道具の正しい使い方管理 片づけができていないか。各時間提出する提出物をきちんとまとめて提出しているか。単元ごとの作品制作、創作作品の取り組み及び完成度 等を総合的に判断し評価する
<p>○自らの感性に基づき作品や古典の書美について直感的な把握を試み、用具・用材・構成、また作者や時代背景といったさまざまな要素について考え、分析する姿勢で試みたい。</p> <p>○技法の習得においては自分の解決すべき課題や問題点を見極めながら練習する習慣を身につけたい。</p> <p>○創作においては感興に応じた表現を目指し、詩文や用具・表現形式などについてより効果的なものを積極的に選択したい。</p>	

学 習 計 画	学習時期	学習内容	学習のねらい	時配
	4月	はじめに 文字の造形を学ぶ	・漢字の書体変遷を再確認して、特徴を比較分析する	2
5月	篆書	・書体毎に違う特徴・用筆・基本点画を理解し、表現できるようにする	8	
6月	隸書		8	
7月	草書	・1学期学習した内容を踏まえ、図画・作文・書道コンクールに向けた半切作品制作を行う	8	
9月	行書	・書写検定に取り組む	8	
10月	楷書	・書道Ⅰで学んだ内容を踏まえ、高度な処方の境地に見える普遍的な美や抑揚に富んだ用筆・運筆を味わわせる		
11月	創作	・自分の表札を制作する		
12月	刻字	・1、2学期学習した内容を踏まえ書初め展に向けた半切作品制作を行う		
1月	文字の造形を学ぶ 仮名の書	・書道Ⅰで学んだ基本的な知識を生かし、さらに多くの表現技法を学び知識を広げ、活用できるようにする	10	
2月				
3月	仮名創作	・主体的かつ意図的な創作への構想を広げられるようにする	8	